



戦争をさせない Anti-War Committee of 1000 1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.11

(2014年10月30日号)

〒101-0063東京都千代田区

神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

■10.24 ANTI WAR LIVE in Hibiya

集団的自衛権の行使容認に反対するアーティストによる「戦争をさせない 1000 人委員会プレゼント～ANTI WAR LIVE in Hibiya」が、10月24日に東京・日比谷野外音楽堂で開かれました。

ライブには、歌手の加藤登紀子さん、頭脳警察、フォーク歌手の中川五郎さん、ランキン・タクシー、制服向上委員会、桃梨、宙也↑幸也の7組が出演しました。また、1000人委員会呼びかけ人からコメンテーターとして評論家の佐高信さん、ルポライターの鎌田慧さんが登壇し、戦争反対のメッセージを訴えました。

オープニングでは、司会の橋本美香さん（制服向上委員会会長）がソロの弾き語りでクロスビー・スティルス・ナッシュ&ヤングの「ティーチ・ユア・チルドレン」を歌いました。

続いて、若者が銃を取ることに反対し、憲法9条の解釈改憲を批判した歌「理想と現実」を頭脳警察のPANTAさん、中川五郎さん、橋本美香さん、制服向上委員会が披露しました。

ランキン・タクシーは軽快なレゲエに乗せてラップで熱唱。安倍総理を批判する曲や、戦争で5人の子どもを失ったおばあさんに捧げた「喜びの歌」など3曲を歌いました。



加藤登紀子さんら7組のアーティストが反戦を訴えて熱唱した
(10月24日、日比谷野外音楽堂)



橋本美香さん



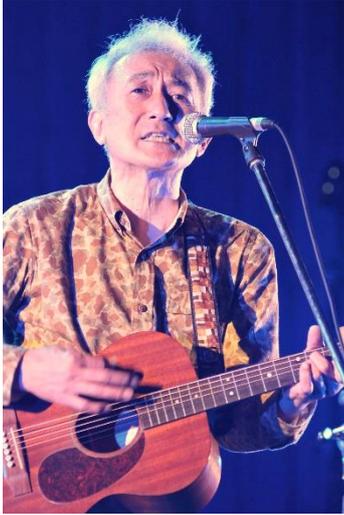
憲法9条の解釈改憲を批判した歌「理想と現実」を歌う
PANTAさん・中川五郎さん・制服向上委員会・橋本美香さん

桃梨はボーカルの上村美保子さんとベースのJIGENさんにパーカッションとハーモニカを加えた4人で出演。誰もが権利を奪われることのないように願う「素晴らしい日に」、「『あ』の付く言葉」、「君に贈る」などを情感豊かな演奏で、しっとりと歌い上げました。



ランキン・タクシー

中川五郎さんは、首相官邸に向けて安倍首相を批判する歌「ライセンス・トゥ・キル」を熱唱。戦争反対を訴える人が一人でも増えることを願う曲「一台のリヤカーが立ち向かう～We Shall Overcome (メドレー)」を歌いました。



中川五郎さん

を批判する歌「アメリカ」、石原伸晃前環境大臣の発言を批判した歌「金目(かねめ)でしょっ！」の4曲を披露しました。



頭脳警察

語り、「百万本のバラ」、ジョン・レノンの「パワー・トゥー・ザ・ピープル」、新曲「愛を耕すものたちよ」など4曲を熱唱しました。観客は手拍子と歓声で盛り上がり、戦争反対の想いを一つにしました。



佐高信さん

佐高信さん 先日、福島県知事選挙の応援で会津若松に行ってきた。私は山形県酒田市の出身で昔の庄内藩だ。幕末に会津と庄内は、薩長から賊軍とされて最後まで抵抗した。言うまでもなく安倍晋三は長州でその前の小泉純一郎の父親は薩摩だ。いまだに薩長が世の中を悪くしている。軍隊というのはそもそも私たちを守らない。昔自



桃梨



宙也†幸也



制服向上委員会

頭脳警察は、ボーカル&ギターのパンタさんとパーカッションのトシさんの2人組。イラク戦争をテーマにした「7月のムスターファ」など3曲を熱唱しました。

ライブの最後に加藤登紀子さんが登場。「歌手生活50年目に入ったが、思い出深いのは1969年7月に日比谷野音で『ひとり寝の子守唄』を歌ったとき、周囲は反戦運動の真最中で歌の合間にシュプレヒコールが聞こえた。何年たっても声を上げ続けて灯を絶やしてはいけない」と



加藤登紀子さん

衛隊のトップが「自衛隊は国民の生命財産を守るために存在していると誤解している人が多い」とはっきり言っている。つまり国民を守らないということだから、集団的自衛権などそもそもナンセンスな話だ。国民を守らない軍隊はいらないというのが私の立場だ。



鎌田慧さん

鎌田慧さん いま私たちは史上最悪の安倍政権の下で暮らしている。政府というのは国民の安心・安全な生活を保障するために存在し、私たちはそのために税金を払っている。それを裏切る政府は存在する必要がない。いま安倍政権が進めていることは、一つは原発再稼働だ。今日も次第に寒くなってきたが福島で仮設住宅に暮らしている人々や、全国各地に避難してもう故郷に帰れない人が10万人以上いる。さらに特定秘密保護法は、秘密の定義がはっきりしないのに人を罰しようとする。そして集団的自衛権は、アメリカの戦争にどこまでもついて行くということだ。労働者にとっては残業代ゼロで、いくら働いても残業代が出ない。こういうことを公然とやろうとしている。私たちと真っ向から敵対している政権がいま厳然とあり、それに刃向うことができない。日米ガイドラインは切れ目なく日米

が協力することで、平時から緊急時まで米軍と一体化して行動するということを決めようとしている。以前は周辺事態と言っていたが、今は周辺から地球の裏側までアメリカと行動する。これでは完全にアメリカの鉄砲玉だ。それでもなお、国益のためと言っている。日本の安全を脅かし、国民の健康を脅かし、働いても生活できないような状況を押し付けている。そのような政権を生み出してしまった。これから私たちはこの政権を許さないで闘わなければいけない。

もう一つは、2015年度の防衛予算が5兆5千億円で過去最高になっている。今までは国家予算の5%以内と言ってきたが、それを超えている。この予算でステルス戦闘機、オスプレイ、強襲揚陸艇などを買って、戦争への準備を進めていく。この予算は私たちの税金だ。生活を良くしたいために税金を納めているが、その税金で彼らは一方的に軍事産業を拡大させる政策を行っている。日本の軍事産業は、三菱重工、東芝、日立などが兵器を作って輸出しようとしている。これらのメーカーは全て原発を製造しているメーカーだ。つまり原発と兵器が一体化している。核武装は絶対しないということは言っていないわけで、使用済み核燃料のプルトニウムを核兵器に転用するかもしれない。このような悪政と闘っていくということをいつも決意しながら行動していきたい。これからも多くの人に働きかけて頑張っていきましょう。

■集会・活動スケジュール

10月30日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。詳細はホームページをご覧ください。

11月11日(火) 18時30分～20時

戦争をさせない・9条壊すな！11.11 総がかり国会包囲行動

場 所：国会議事堂周辺

※戦争をさせない1000人委員会は、衆議院第二議員会館～参議院議員会館前を受け持ちます

主 催：戦争をさせない東京1000人委員会／
解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会



集団的自衛権「NO」じわり

「1000人委」全国に草の根団体

集団的自衛権の行使容認に反対して今春、結成された「戦争をさせない1000人委員会」。賛同団体が43都道府県にでき、その数は閣議決定で行使を認められた7月から倍増した。「ご近所」で支持を訴えたり、女性だけで署名を集めたり。市民の輪が広がる。

「1000人委員会」は作家の瀬戸内寂聴さんや大江健三郎さんが発起人になり、3月に東京で結成。事務局によると、安倍政権が7月に集団的自衛権の容認を閣議決定する直前は、24都道県に賛同団体があった。

当初は閣議決定を止めることが主な目的だったが、その後も「戦争をさせない」「閣議決定撤回を」と

輪を広げる動きは消えず、27日現在で43都道府県にな

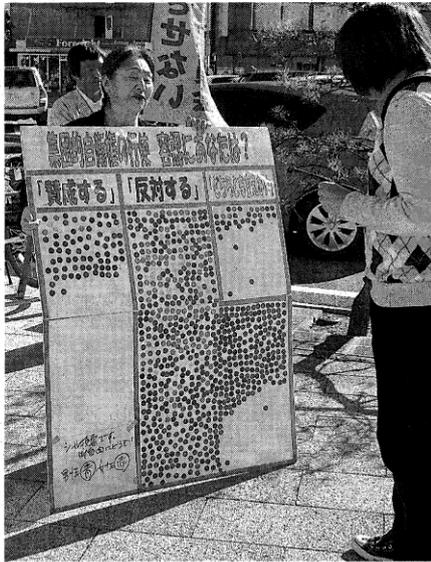
「まず関心を」「素人感覚大事に」

「集団的自衛権の行使容認、あなたは？」

25日午後、長野県松本市のJR松本駅前。高さ約1・4メートルのプラスチック板が掲げられた。「賛成」「反対」「どちらとも言えない」の三択で、シールで答

った。残る大阪、山口、大分、滋賀の4府県でも、年内に団体立ち上げを目指す動きが出ているという。各団体が集めた「反対署名」は9月末までに約24万筆。「今後も署名・デモ活動をしていきたい」と

えらもう。バス停にいた10代後半の女性は、少し考えて「反対」に張った。実施したのは「1000人委員会・まつもと」のメンバーらだ。結成したのは集



集団的自衛権行使の賛否を市民にシールで答えてもらう街頭活動を駅前で行った25日、長野県松本市。戦争をさせない1000人委員会・まつもと提供

事務局の男性担当者は話

す。幅広い市民が加わった。シールを使った問いかけにこれまで200人以上に答えてもらった。「まずは集団的自衛権とは何か、関心をもちたい」。メンバーの田口輝子市議(66)は話す。閣議決定され、国会でも本格的な議論がない。このままでは忘れられてしまふと危機感に背を押されているという。

「1000人委員会・京

おんなの会」は、京都府内に住む30〜60代の女性6人だけの集まりだ。子育てや仕事の合間を縫って自宅近くで活動する。代表の高取利喜恵さんは「素人の感覚を大事にしたい」と話す。署名活動を続けていたさなかの閣議決定。市民の関心が下がらないか気になった。だが、街行く人から返ってきた答えに拍子抜けした。「集団的自衛権って何か？」。この程度の認識なのか。逆に「もっと知らせなきゃ」と思った。

従来型の組織とは一線を画して、激しい言葉遣いで相手を批判するような手法は避けている。拡声機やたすきは使わない。広く共感を得られるようにしたかった。今後も署名運動を通じて閣議決定の撤回を求めていきたいという。「あなた自身や子供たちが戦争に参加することになるかもしれないから」斉藤佑介、清水大輔

<事務局からのお知らせ>

各地域の取り組み、1000人委員会の立ち上げ、賛同者の皆様のメッセージなどを掲載していきたいと考えています。事務局へ手紙、FAX、メールでお寄せください。紙面の都合上、掲載しきれない場合はご了承ください。